

# 事後評価結果（令和元年度）

担当課：四国地方整備局 道路部 道路計画課

担当課長名：鈴木 大健

事業名	一般国道 55 号 <small>おおやま</small> 大山道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：高知県安芸市下山 至：高知県安芸市河野	延長	2.0km		

**事業概要**

一般国道 55 号は、徳島市を起点に小松島市、阿南市、室戸市、安芸市、南国市などを經由し、高知市に至る延長約 200 km の主要幹線道路であり、四国広域幹線ネットワークを形成する基幹動脈として、地域の生活や経済、観光の振興に大きな役割を果たしている。

大山道路は、現道で度々生じている斜面崩壊や越波による路面冠水などによる通行止めを解消することで、救急医療や災害時の緊急輸送を支える「命の道」の確保を目的とした延長 2.0km の 2 車線道路であり、平成 26 年度に開通した。

**事業の目的・必要性**

大山道路は、災害時の交通途絶危険箇所の回避、信頼性の高い救急搬送ルート確保、県東部地域の観光活性化及び地域産業の流通を支援することを目的としている。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	平成 16 年度	用地着手	平成 18 年度	供用年	(当初) ー/平成 26 年度	変	動	1.00 倍
		都市計画決定	ー	工事着手	平成 20 年度	(暫定/完成)	(実績) ー/平成 26 年度			
	事業費	計画時	(名目値) ー/63 億円	実績	(名目値) ー/60 億円			変	動	0.95 倍
		(暫定/完成)	(実質値) ー/62 億円	(暫定/完成)	(実質値) ー/61 億円					
	交通量 (当該路線)	計画時		実績				変	動	133%
		(暫定/完成)	ー/8,500 台/日	(暫定/完成)	ー/11,300 台/日					
	旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	51.6	→	56.6 Km/h	交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)	45.0	→	18.0 件/億台キロ		
		(供用前年次) H26 年度		(供用後年次) H30 年度		(供用前年次) H26 年度		(供用後年次) H29 年度		
	費用対効果 分析結果 (当初)	B/C	1.3	総費用	64 億円 (事業費: 61 億円 維持管理費: 3.2 億円)	総便益	80 億円 (走行時間短縮便益: 63 億円 走行経費減少便益: 13 億円 交通事故減少便益: 4.5 億円)	基準年	平成 24 年	
	費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	1.02	総費用	86 億円 (事業費: 78 億円 維持管理費: 7.3 億円)	総便益	87 億円 (走行時間短縮便益: 69 億円 走行経費減少便益: 14 億円 交通事故減少便益: 3.8 億円)	基準年	令和元年	
事業遅延によるコスト増	費用増加額		ー億円	便益減少額		ー億円				
事業遅延の理由	ー									

	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <p>① 円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現道等の渋滞損失時間が削減【約 95 千人時間/年→約 0 千人時間/年 100%削減】</li> <li>・ 大山道路の開通により渋滞がなくなったことで現道が走りやすくなり利便性が向上</li> </ul> <p>② 流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通途絶危険箇所を回避した搬送経路が形成されたことで、通行止め時の迂回による搬送時間の損失を受けずに鮮魚を出荷できるなど、地域の一次産業の流通の利便性が向上</li> </ul> <p>③ 国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奈半利町から日常生活圏中心都市である安芸市へのアクセスが向上【25 分→24 分】</li> </ul> <p>④ 個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AMA（阿南市、室戸市、安芸市）地域連携を支援 【室戸市→安芸市：54 分→53 分】</li> <li>・ モネの庭マルモッタンなどの主要な観光地へのアクセスが向上 【高知 JCT→モネの庭マルモッタン：88 分→87 分】 【モネの庭マルモッタン（H26：5 万 4 千人→H29：7 万 5 千人）】</li> </ul> <p>⑤ 安全で安心できるくらしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中芸広域連合消防本部から三次救急医療施設へのアクセスが向上 【中芸広域連合消防本部→高知医療センター：71 分→70 分】</li> </ul> <p>⑥ 安全な生活環境の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現道区間の交通量の減少により、死傷事故率が減少 【死傷事故率（H26：45.0 件/億台キロ⇒H29：18.0 件/億台キロ）】</li> </ul> <p>⑦ 災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安田町、馬路村、北川村、田野町、奈半利町、室戸市の集落の孤立を解消</li> <li>・ 高知県緊急輸送道路ネットワーク計画（平成 24 年 1 月策定）において第一次緊急輸送道路に位置づけ</li> <li>・ 現道である旧国道 55 号が路面冠水等により通行止めになった場合の代替路を形成</li> <li>・ 防災点検箇所を回避</li> </ul> <p>⑧ 地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CO2 排出量が約 407t-CO2/年（約 23.6%）削減【1,729t-CO2/年→1,322t-CO2/年】</li> </ul> <p>⑨ 生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NO2 排出量が約 3.9t-NO2/年（約 100%）削減【3.9t-NO2/年→0t-NO2/年】</li> <li>・ SPM 排出量が約 0.23t-SPM/年（約 100%）削減【0.23t-SPM/年→0t-SPM/年】</li> </ul> <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>—</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>—</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>—</p>
<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沿線地域（安芸市）の人口は、平成 16 年度の事業化以降減少傾向。</li> <li>・ 沿線地域（安芸市）の自動車保有台数は微増傾向。</li> <li>・ 大山道路の利用が想定される通勤通学流動（H27）は約 2,000 人/日であり、平成 16 年度の事業化以降減少傾向。</li> </ul>	
<p>今後の事業評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大山道路の完成供用により、災害時の交通途絶危険箇所の回避や信頼性の高い救急搬送ルート確保、県東部地域の観光活性化及び地域産業の流通という大山道路整備の目的に見合う効果を確認できており、今後の事業評価の必要性はない。</li> </ul>	
<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業前後の整備効果に関して統計指標、ヒアリング等を用いて、整備効果の確認が出来ている。</li> <li>・ 現時点では、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性は見られない。</li> </ul>	
<p>特記事項</p> <p>特になし</p>	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。